

洪吟 二

李 洪 志

<p style="text-align: center;">堅定</p> <p>覺悟者出世為尊 精修者心篤圓滿 巨難之中要堅定 精進之意不可轉</p> <p>一九九九年五月三日 二零零四年二月修改</p>	<p style="text-align: center;">堅定</p> <p>悟った者この世に来て師尊と為り 精進する修煉者は心を篤くし円満成就に 向かい 巨難の中で必ず堅い意志で 精進の決意は変わらず</p> <p>一九九九年五月三日 二〇〇四年二月修正</p>	
<p style="text-align: center;">無題</p> <p>大法看人心 世人要清醒 神人鬼畜滅 位置自己定</p> <p>一九九九年五月三日 二零零四年二月修改</p>	<p style="text-align: center;">無題</p> <p>大法は人心を見る 世の人は頭がはっきりすべし 神、人、鬼、畜、滅 位置は自己が定める</p> <p>一九九九年五月三日 二〇〇四年二月修正</p>	
<p style="text-align: center;">見真性</p> <p>堅修大法心不動 提高層次是根本 考驗面前見真性 功成圓滿佛道神</p> <p>一九九九年五月八日</p>	<p style="text-align: center;">真性を見る</p> <p>大法を堅く修めて心動かず 次元向上するは是^{これ}根本 試練を面前にして真性が見ゆ 功成り圓滿して佛、道、神</p> <p>一九九九年五月八日</p>	

心自明

法度眾生師導航
一帆升起億帆揚
放下執著輕舟快
人心凡重難過洋
風雲突變天欲墜
排山搗海翻惡浪
堅修大法緊隨師
執著太重迷方向
船翻帆斷逃命去
泥沙淘盡顯金光
生死非是說大話
能行不行見真相
待到它日圓滿時
真相大顯天下茫

一九九九年十月十二日
二〇〇〇年五月二十二日發表

心自ずから明らか

法は衆生を濟度し師は航路を導く
一つの帆昇れば億の帆揚がる
執着を放下して輕舟快し
人心凡俗で重ければ洋を過ぐる事難し
風雲急變して天墜ちんとす
山を排し海を搗く悪浪翻る
大法を堅く修めてしっかりと師に随い
執着重過ぎれば方向に迷う
船翻り帆断たれ命を逃れて去り
泥沙濯ぎ尽くして金光顕る
生死は大言を説くに非ず
能く行かうか行わざるかに真象が見ゆ
待ち到る他日圓滿の時
真象大いに顕れて天下茫たり

一九九九年十月十二日
二〇〇〇年五月二十二日發表



報應

末世爛鬼多
披著人皮作
間隔一除盡
世上擺油鍋

二〇〇〇年九月一日
庚辰年八月四日

応報

末世爛鬼多し
人の皮を被りて
間隔を除き尽すと
世上に油の鍋を並べる

二〇〇〇年九月一日
庚辰年八月四日



<p style="text-align: center;">法網</p> <p>明慧救度有縁者 新生可去腦中惡 人民刀筆鬼生愁 法輪大法是正見</p> <p>二零零一年一月十七日 庚辰年十二月二十三日</p>	<p style="text-align: center;">法の網</p> <p>明慧は有縁の者を済度し 新生は脳中の悪を去る可し 人民の刀筆<small>とうひつ</small>は鬼<small>うれ</small>に愁いを生ぜしめ</p> <p style="text-align: center;">法輪大法<small>これ</small>は是正見</p> <p>二〇〇一年一月十七日 庚辰年十二月二十三日</p>	
<p style="text-align: center;">正大穹</p> <p>邪惡逞幾時 盡顯眾生志 此劫誰在外 笑看眾神癡</p> <p>二零零一年二月十日 辛巳年正月十八日</p>	<p style="text-align: center;">大穹を正す</p> <p>邪惡<small>たくま</small>の逞しきは幾時までか 衆生の志<small>ことごと</small> 尽く顛れる 此<small>こう</small>の劫は誰が外に在る 衆神<small>おろか</small>の癡なるを笑って看る</p> <p>二〇〇一年二月十日 辛巳年正月十八日</p>	

普照

神佛世上走
邪惡心生愁
亂世大法解
截室世下流

二零零一年二月十七日
辛巳年正月二十五日

普く照らす

神佛は世上を行く
邪惡の心に愁い生ずる
乱世を大法が解く
世の墮落を^{ふさ}き^き截る

二〇〇一年二月十七日
辛巳年正月二十五日



除惡

車行十萬里
揮劍消惡急
天傾立掌擎
法正去陰罹

二零零一年二月十九日
辛巳年正月二十七日

惡を除く

車行きて十万里
劍を^{ふる}揮い惡を消すこと急
天傾きて掌を立て持ち上げる
法を^{かげり}正し陰罹を去る

二〇〇一年二月十九日
辛巳年正月二十七日



無

無無無空無東西
無善無惡出了極
進則可成萬萬物
退去全無永是迷

二零零一年二月二十二日

無

無、無、無、何も無し
善無く惡無く極を出る
進めば則ちすべての物と成る可し
立ち去れば全て無く永遠の謎なり

二〇〇一年二月二十二日



留意

一路征塵一路風
萬惡除盡萬眾生
勞心力解淵怨事
難得歡心看風景

二零零一年二月二十二日

留意

一路の^{せいじん}征塵、一路の風
萬の悪を除き尽して、萬の衆生が生ず
心を^{つと}勞し^{えんおん}力めて解く淵怨の事
楽しく風景を見る心も得難し

二〇〇一年二月二十二日



行中

天涯何處險
一覽峽中天
神仙何處尋
對面不識仙

二零零一年二月二十二日
於美國大峽谷

行中

天涯どこが険しいか
一望する^{きょうちゆう}峽中の天
神仙を何処に尋ぬ
對面しても仙であることを^し識らず

二〇〇一年二月二十二日
アメリカの大峽谷にて



解大劫

多少人間亂事
歷經重重恩怨
心惡業大無望
大法盡解淵源

二零零一年二月二十二日

大劫を解く

多くの人間の乱れし事
重々なる恩怨を経歴す
心は悪く業は大きく望み無し
大法はすべての^{えんげん}淵源を解く

二〇〇一年二月二十二日



得道明

一朝天子一朝眾
朝朝接縁把法等
別管當朝縁中事
圓滿回家萬事通

二零零一年二月二十四日

得道して明白

一朝の天子、一朝の衆生
朝朝縁を結び、法を等つ
縁による今朝の事に管わる別れ
圓滿して家に帰れば万事通ず

二〇〇一年二月二十四日



無迷

誰是天之主
層層離法徒
自命主天穹
歸位期已近
看誰還糊塗

二零零一年三月十四日

迷わないで

誰が天の主か
層層を離れて法徒になり
自らの命は天穹てんきゆうを主宰す
歸位の時、すでに近し
誰がまだ目が醒めないのか

二〇〇一年三月十四日



道中行

大道世間行
救度迷中生
淘去名情利
何難能阻聖

二零零一年三月十九日

道中行

大道世間を行く
迷いの中、衆生を救い濟度す
名、情、利を淘よなぎ去れば
いかなる難も聖人になることを阻はばまん

二〇〇一年三月十九日



去執

雖言修煉事
得去心中執
割捨非自己
都是迷中癡

二〇〇一年四月十六日
辛巳年三月二十三日

執着を取り除く

修煉の事と言うなら
心の中の執着を取り除くべし
切り捨てることは本当の自己では非ず
それはすべて迷い中の痴ち

二〇〇一年四月十六日
辛巳年三月二十三日



無阻

修煉路不同
都在大法中
萬事無執著
腳下路自通

二〇〇一年四月十六日
辛巳年三月二十三日

阻む無し

修煉は路同じからず
すべて大法の中に在り
万事執着無ければ
脚下に路自ずから通ず

二〇〇一年四月十六日
辛巳年三月二十三日



縁結蓮開

風流人物今何在
大法開壇相繼來
歲月悠悠千百度
縁結正果眾蓮開

二〇〇一年六月十九日

縁結ばれて蓮開く

風流人物今何いずこに在る
ダーファカいだん
大法開壇して相繼いで来る
歲月悠々千百度
縁を結び正果を得て眾蓮開く

二〇〇一年六月十九日



漸齊

惡浪翻中見霞跡
各項劫數已漸齊
蒼穹法正乾坤定
返還世間招蝨蟻

二零零一年七月十七日

段々と揃う

悪い浪がひるがえ翻る中、かすみ霞の跡が見ゆ

各項の劫数が段々とそろ揃う

そうきゅう蒼穹法正してけんこん乾坤定まり

世間に返還ししらみ虱をつぐ招す

二〇〇一年七月十七日



真言

神佛來世間
句句吐真言
天地人神事
真機為法傳

二零零一年八月十九日

真言

神佛が世間に来る
句句吐くは真言
天地人神の事
真機は法を伝える為なり

二〇〇一年八月十九日



秋風涼

邪惡之徒慢猖狂
天地復明下沸湯
拳脚難使人心動
狂風引來秋更涼

二零零一年十月二十五日

秋風涼し

邪惡之徒たけり猖狂ってはならん

天地再び明るめばふつとう沸湯に下される

けんきやく拳脚は人心を動かせ難し

狂風引き来る秋更に涼し

二〇〇一年十月二十五日



<p style="text-align: center;">預</p> <p>秋不去 春已到 人不信 全來到 天開口 大地燒 邪惡躲 壞人逃 功湧進 鬼哭嚎 大法徒 上九霄 主掌天地正人道</p> <p>二零零一年十二月三十日</p>	<p style="text-align: center;">預</p> <p>秋去らざるに 春已に到る 人信ぜずも 全て来到す 天は口を開け 大地は焼ける 邪惡は<small>かわ</small>躲し <small>あく</small> 壞人は逃れる 功は湧進し 鬼は<small>な</small> 哭き吠える 大法の徒 九天に上り 天地を主宰し 人道を正す</p> <p>二〇〇一年十二月三十日</p>	
<p style="text-align: center;">大道行</p> <p>舉目望青天 洪微皆是眼 上下聚焦處 大道行世間</p> <p>二零零二年一月十五日</p>	<p style="text-align: center;">大道行</p> <p>目を挙げて晴天を望めば 洪<small>ほん</small>微<small>び</small>すべて眼<small>まなこ</small> 上下焦点の<small>あつま</small>聚る処 大道世間を行く</p> <p>二〇〇二年一月十五日</p>	
<p style="text-align: center;">劫</p> <p>黯黯陰雲幾日渾 嚴寒盡逝已見春 眾生醒見驚心事 中原半壁覆沙塵</p>	<p style="text-align: center;">劫</p> <p>黯<small>あん</small>黯<small>あん</small>たる陰雲幾日渾<small>にご</small> 嚴寒<small>ゆ</small>尽く逝きて已に春見ゆ 衆生醒めて見る驚愕<small>きょうがく</small>の事</p>	

<p>二零零二年一月二十二日</p>	<p>中原半ば砂塵が覆う</p> <p>二〇〇二年一月二十二日</p>	
<p style="text-align: center;">掃除</p> <p>陰雲過 風還急 赤龍斬 人還迷 邪惡處 有陰霾 大法徒 單掌立 除餘惡 正念起 講真相 救眾生 滅惡盡 掃寰宇</p> <p>二零零二年一月二十三日</p>	<p style="text-align: center;">掃除</p> <p>陰雲過ぎ 風還急<small>なお</small> 赤龍切らるるも 人還迷<small>なお</small> 邪惡の処 陰霾<small>いんばい</small>あり 大法の徒 掌を立て 余惡を除き 正念を起こす 真相を講じ 衆生を救う 惡を滅し尽して 寰宇<small>かんう</small>を掃く</p> <p>二〇〇二年一月二十三日</p>	
<p style="text-align: center;">必然</p> <p>眾惡齊下何等狂 欺世大謊翻天揚 戲做人丑發盡飊 烘托大法後下湯</p> <p>二零零二年一月三十日</p>	<p style="text-align: center;">必然</p> <p>諸惡一齊に下りて、何と狂うものだろう 世を欺く大嘘、天を翻して撒き散らす 人世の醜惡役を為して、飊風<small>ひょうふう</small>を発し尽し 大法を浮き立たせた後に、煮湯に下される</p> <p>二〇〇二年一月三十日</p>	

淘

天傾地覆落沙塵
毒害凡世幾億人
慈悲救度知多少
中原處處添新墳

二零零二年一月三十一日

淘

天傾き地覆って砂塵落つ
俗世の幾億人を毒害す
慈悲救済されるはどれほどいるか
中原^{しんぶん}処々に新墳が添う

二〇〇二年一月三十一日



大舞台

人世五千載
中原是戲台
心癡戲中事
陸離多姿彩
醒來看你我
戲台為法擺

二零零二年二月一日

大舞台

人の世五千載^{さい}
中原^{これ}は是劇の舞台
心は劇中の事に迷い込み
陸離^{りくり}として多様多彩
醒めて来たり見る汝と我
舞台は法の為^{ひら}に擺く

二〇〇二年二月一日



戲一台

天作幕 地是台
運乾坤 天地開
萬古事 為法來
法輪轉 新三才

二零零二年二月五日

劇一台

天は幕を作り 地は是^{これ}舞台
乾坤を運び 天地開く
萬古の事 法の為に来る
法輪^{ファールン}転じて 新たな三才



	二〇〇二年二月五日	
<p>精進正悟</p> <p>學法不怠變在其中 堅信不動果正蓮成</p> <p>二〇〇二年四月六日</p>	<p>精進正悟</p> <p>学法を怠らざれば変化は其の中に在り 堅信して動かざれば正果になり蓮は成る</p> <p>二〇〇二年四月六日</p>	
<p>法正乾坤</p> <p>慈悲能溶天地春 正念可救世中人</p> <p>二〇〇二年四月六日</p>	<p>法正乾坤</p> <p>慈悲は天地の春を溶かし 正念は世中の人を救う可し</p> <p>二〇〇二年四月六日</p>	
<p>大法好</p> <p>法輪大法好 大穹法光照 正法洪勢過 方知無限妙</p> <p>法輪大法好 漸入世人道 眾生切莫急 神佛已在笑</p> <p>二〇〇二年四月二十五日</p>	<p>大法好</p> <p>法輪大法好 大穹は法光が照らす 正法の洪勢が過ぎて はじめて 方 知る無限の妙</p> <p>法輪大法好 ようや 漸く世人の道に入る</p> <p>衆生は急ぐ切莫^{なかれ} 神佛は已に笑っている</p> <p>二〇〇二年四月二十五日</p>	

<p style="text-align: center;">鐘樓</p> <p style="text-align: center;">洪聲震法界 法音傳十方</p> <p style="text-align: center;">二〇〇二年五月五日</p>	<p style="text-align: center;"><small>しょうろう</small> 鐘樓</p> <p style="text-align: center;">洪声法界を震わし 法音十方に伝わる</p> <p style="text-align: center;">二〇〇二年五月五日</p>	
<p style="text-align: center;">鼓樓</p> <p style="text-align: center;">重錘之下知精進 法鼓敲醒迷中人</p> <p style="text-align: center;">二〇〇二年五月五日</p>	<p style="text-align: center;"><small>ころう</small> 鼓樓</p> <p style="text-align: center;"><small>じゅうすい</small> 重錘の下精進を知る</p> <p style="text-align: center;"><small>たた</small> 法鼓敲いて迷いの中の人を醒ます</p> <p style="text-align: center;">二〇〇二年五月五日</p>	
<p style="text-align: center;">佛法無邊</p> <p style="text-align: center;">香爐盡收亂法鬼 寶鼎熔化不法神</p> <p style="text-align: center;">二〇〇二年五月五日</p>	<p style="text-align: center;">佛法無辺</p> <p style="text-align: center;">香炉は法を乱す鬼を収め尽くし</p> <p style="text-align: center;"><small>ほうてい</small> 宝鼎は不法な神を溶化す</p> <p style="text-align: center;">二〇〇二年五月五日</p>	

入無生之門

騎虎難下虎
人要與神賭
惡者事幹絶
堵死自生路

二〇〇二年五月十三日

無生之門に入る

騎^{きこ}虎しつつも虎より下り難し
人が神に賭けんとなす
悪者事をやり尽くし
自ら生路を塞ぎ切る

二〇〇二年五月十三日



如來

帶著如意真理來
灑灑脫脫走四海
法理撒遍世間道
滿載眾生法船開

二〇〇二年五月十三日

如來

如意真理を帯びて来る
洒^{しゃだつ}脱として四海を歩む
法理を世間にくまなく撒き散らし
衆生を滿載して法船^{しゅつぽん}は出帆す

二〇〇二年五月十三日



正念正行

大覺不畏苦
意志金剛鑄
生死無執著
坦蕩正法路

二〇〇二年五月二十九日

正念正行

大覺は苦を畏^{おそ}れず
意思は金剛より鑄^いられる
生死に執着無く
坦^{しょうぼう}坦たり正法の路

二〇〇二年五月二十九日



神路難

悠悠萬世縁
大法一線牽
難中煉金體
何故歩姍姍

二零零二年五月三十日

神の路難し

悠々たる萬世の縁
大法の一線より牽く
難中に金體を煉し
何故か蹣跚と歩む

二〇〇二年五月三十日



正神

正念正行
精進不停
除亂法鬼
善待眾生

二零零二年五月三十日

正神

正念正行
精進停まらず
法を乱す鬼を除き
衆生を善く遇す

二〇〇二年五月三十日



天又清

天昏昏地暗暗
神雷炸陰霾散
横掃亂法爛鬼
別説慈悲心淡

二零零二年六月十六日
寫給美國中部法會

天又清し

天昏昏、地暗暗
神雷炸けて陰霾散ず
法を乱す爛鬼を一掃するに
慈悲の心淡きと説くなかれ

二〇〇二年六月十六日
米国中部法会に寄せて



震懾

神筆震人妖
快刀爛鬼消
舊勢不敬法
揮毫滅狂濤

二〇〇二年七月二十八日

しんしょう
震懾

神筆人妖を震わし

快刀爛鬼を消す

旧勢力法を敬わず

きごう きょうとう
揮毫して狂濤を滅す

二〇〇二年七月二十八日



快講

大法徒講真相
口中利劍齊放
揭穿爛鬼謊言
抓緊救度快講

二〇〇二年八月二十一日

快講

大法徒真相を講ず

口中の利劍齊しく放つ

らんき
爛鬼の嘘を暴き出し

急いで救い済度し速く講ず

二〇〇二年八月二十一日



清醒

大法徒 抹去涙
撒旦魔 全崩潰
講真相 發正念
揭謊言 清爛鬼

二〇〇二年九月一日

清醒

大法の徒 涙を拭いたまえ

サタンの魔 全て崩潰

真相を講じ 正念を發し

嘘を暴き らんき
爛鬼を清める

二〇〇二年九月一日



<p style="text-align: center;">誰迷</p> <p>細細微微一塵埃 造化眾生土中埋 迷中世人能得法 愚狂反在塵世外</p> <p>二零零二年九月五日</p>	<p style="text-align: center;">誰か迷う</p> <p>細々微々たる一塵埃^{じんあい} 造化の衆生は土中に埋まる 迷いの中世人は法を得られ 愚狂は反って塵世の外に在り^{じんせい}</p> <p>二〇〇二年九月五日</p>	
<p style="text-align: center;">網在收</p> <p>暴惡幾時狂 秋風已見涼 爛鬼心膽寒 末日看絶望</p> <p>二零零二年九月十四日</p>	<p style="text-align: center;">網収めつつある</p> <p>暴惡幾時まで狂う 秋風已に涼し 爛鬼心怖がり^{らんき} 末日に絶望を見る</p> <p>二〇〇二年九月十四日</p>	
<p style="text-align: center;">還吧</p> <p>十年傳法大門開 多少眾生進不來 迷在世間忘了本 狂風起時隨著壞</p> <p>二零零二年十二月十二日</p>	<p style="text-align: center;">償えよ</p> <p>十年伝法して大門開く どれほどの衆生入って来られず 世間に迷いて本を忘れ^{もと} 狂風起こる時伴って壊れる</p> <p>二〇〇二年十二月十二日</p>	

<p style="text-align: center;">神威</p> <p>塵消霧散氣漸清 世人迷醒眼中驚 大法洪勢漫人世 再看神佛世上行</p> <p>二零零二年十二月廿八日 壬午年十一月廿五日</p>	<p style="text-align: center;">神威</p> <p>塵消霧散して氣^{ようや}漸く清し 世人迷いより醒めて眼中驚く 大法洪勢人の世に満ち溢れ 再び見る神佛の世上を行くを</p> <p>二〇〇二年十二月二十八日 壬午年十一月二十五日</p>	
<p style="text-align: center;">圍剿</p> <p>天翻地覆人妖邪 欺世大謊陰風切 大法眾徒講真相 正念法力搗妖穴</p> <p>二零零三年一月二十三日</p>	<p style="text-align: center;">圍剿（包圍殲滅す）</p> <p>天地ひっくり返り人妖の邪 世を欺く大嘘の陰風は切なり 大法の衆徒真相を講じて 正念法力^{ようけつ}妖穴^つを搗く</p> <p>二〇〇三年一月二十三日</p>	
<p style="text-align: center;">梅 元曲</p> <p>濁世清蓮億萬梅 寒風姿更翠 連天雪雨神佛淚 盼梅歸 勿迷世中執著事 堅定正念 從古到今 只為這一回</p> <p>二零零三年一月二十八日</p>	<p style="text-align: center;">梅 元曲</p> <p>濁世に清蓮億萬の梅 寒風に姿更^{せいすい}に青翠なり 連日の雪雨は神佛の涙 待ち望む梅の帰るを 世中の執着事に迷^{なか}う勿れ</p> <p>正念を堅く 古より今まで 只この一回の為なり</p>	

二〇〇三年一月二十八日

下塵

法輪轉時必有狂
國力傾盡為吾忙
靜觀丑角妖戲盡
只剩殘土風中揚
輪迴五千雲和雨
揮去封塵看短長
大戲誰是風流主
只為眾生來一場

壬午年臘月二十九日
二零零三年一月三十一日

下塵

法輪の転る時必ず狂有り
国力を傾け尽して吾の為に忙しがる

うしかど ようぎ
丑角の妖戲尽きるを静観し

あま
只剩る残土が風の中に揚がる

りんね
輪廻五千年の雲と雨

ほうじん
封塵を払い除けて短き長きを見る

大いなる劇は誰かこれ是風流の主

只衆生の為に一場来たれり

壬午年臘月二十九日
二〇〇三年一月三十一日



大法行 宋詞

法輪大法
深未測
成大蒼穹
造眾生
三字真言
理白言明
常人知表得厚福
官吏知淺明如鏡
王知理
安邦治國
得太平
出盛世

大法行 宋詞

ファルンダーファ
法輪大法

深きこと測り知れず

大いなる蒼穹を成し

衆生を造る

三字の真言

理明白で言明晰

常人その表を知れば厚福を得
官吏その浅きを知れば明にして鏡の如

し

王その理を知れば

安邦治國



<p>君臣正 延陰福 民安定 五穀年年豊 修者更明 一朝得法入道中 精進實修功法成 反迫害 救度眾生 神道行</p> <p>二零零三年三月二日 癸未年正月三十日</p>	<p>太平を得 盛世が現れ 君臣も正し 陰福を延ばし 民は安定し 五穀年々豊か 修者は更に明らか 一朝法を得て道中に入る 精進実修して功法成る 迫害に反し 衆生を救度し 神の道を行く</p> <p>二〇〇三年三月二日 癸未年正月三十日</p>	
<p>一念中</p> <p>坦坦蕩蕩正大穹 巨難伴我天地行 成就功德腦後事 正天正地正眾生 真念洪願金剛志 再造大洪一念中</p> <p>癸未年五月十三日</p>	<p>一念中</p> <p><small>たんたんとうとう</small> 坦坦蕩蕩として大穹を正す</p> <p><small>ともな</small> 巨難 伴って我天地を行く 功德を成就すは心にあらず 天を正し地を正し衆生を正す</p> <p><small>ほんがん</small> 真念洪願金剛の志 大洪を再び造るは一念の中</p> <p>癸未年五月十三日</p>	

唐風

身在此山中
神思遊仙境
誰是古中原
不知大唐風

癸未六月

唐風

身は此の山中に在りて
神思は仙境を遊ぶ
誰か^{これ}是古の中原
大唐風を知らず

癸未六月



看好

世間雖小 大穹盡照
滿天是眼 眾神聚焦
穹蒼從組 乾坤再造
爾要它要 可悲可笑
法主正穹 何物可逃

二零零三年六月十九日

好看たまえ

世間小なりと^{いえど}雖も
大穹を^{ことごと}尽く照らす

^{これまなこ}満天是眼

眾神焦点をあてる

^{きゅうそう}穹蒼はもう一度組まれ

乾坤が再び造られる

^{なんじ}爾も要る彼も要る

悲しみ可笑しい

法主は穹を正して

何物は逃れる可しか

二〇〇三年六月十九日



讀學員文章

利筆著華章
詞勁句蘊強
科學滿身洞
惡黨衣扒光

二零零三年七月二十二日

學員の文章を読む

利筆は華章^{あらわ}を著し

詞句^{つよ}剷く奥深く

科学は満身の洞
悪党の衣はすべて剥ぎ取られる

二〇〇三年七月二十二日



亂世 宋詞

中原上下五千年
朝朝代代換新顔
末世天無道
行惡又行妖
豺狼世上走
亂黨妖領頭
不是惡不報
洪勢就來到

二零零三年八月一日

乱世 宋詞

中原上下五千年
朝朝代代新顔に換わる
末世天に道無く
悪を行い又妖を行う
豺狼^{さいろう}世上を走り

乱党を妖が率先す
悪報われずにあらず
洪勢すぐに来到す

二〇〇三年八月一日



正法看 宋詞

漢室天下韓信打
大唐太宗朝疆大
岳飛六郎保中原
為了啥
眾生來此要得法

二零零三年八月十五日

正法を見る 宋詞

漢室の天下は韓信が打ち取り
大唐太宗の朝は疆^{きょう}大き
岳飛、六郎は中原を保る
何の為か
衆生此に来て法を得んとす

衆生此に来て法を得んとす



	二〇〇三年八月十五日	
<p style="text-align: center;">征</p> <p>馳騁萬里破妖陣 斬盡黑手除惡神 管你大霧狂風舞 一路山雨洗征塵</p> <p>二零零三年九月二日</p>	<p style="text-align: center;">征</p> <p>万里馳驅^{ちく}して妖陣を破る 黒手を斬り尽くして悪神を除く 大霧にせよ狂風舞うにせよ 一路の山雨征塵を洗う</p> <p>二〇〇三年九月二日</p>	
<p style="text-align: center;">理智醒覺</p> <p>少息自省添正念 明析不足再精進</p> <p>二零零三年九月四日</p>	<p style="text-align: center;">理智醒覺</p> <p>少なからずに休み自省して正念を添え 不足を明らかにして再び精進す</p> <p>二〇〇三年九月四日</p>	
<p style="text-align: center;">金剛志</p> <p>秋高氣漸清 靄靄陰霾過 時日掐指算 大穹去無多 迷眾各逞亂 巨危不知迫 力挽崩裂前 怎容爛鬼禍 志念超金剛 洪微是我做</p> <p>二零零三年九月四日</p>	<p style="text-align: center;">金剛の志</p> <p>秋高く気は段々と清らか 靄^{あいあい}靄^{いんばい}たる陰霾過ぎ 指折りて時日を^{かぞ}え 大穹去るは多からず 衆を迷わせて各々乱れを示し 巨大危険されど緊迫を知らず 炸裂前に私は全力で挽回し 爛^{らんき}鬼^{かがい}の禍害をなぜ許す</p>	

	<p>志の念は金剛を超え 洪微は是^{これ}我が做す</p> <p>二〇〇三年九月四日</p>	
<p>法正一切</p> <p>衝出三界外 空無顯大宇 法正乾坤久 預歇惡又起 四大已風化 舊法在解體 天體無限大 寰體又洪極 大穹已去遠 主位更絢麗 天性豪氣洪 消磨也不去 意如金剛志 一統大法理</p> <p>二零零三年九月二十日</p>	<p>法は一切を正す</p> <p>三界の外へ衝出し 空無に大宇顕れる 法は乾坤を正して久しく 休まんとすれば悪又起る 四大は已に風化し 旧法は解体しつつある 天体は無限に大きく 寰^{げんたい}体は又極^{ひろ}めて洪し 大穹は已に去ること遠し 主位は更に^{けんれい}絢麗なり 天性の豪氣は洪し 消磨しども去らず 意は金剛の志の如く 大法の理を一統す</p> <p>二〇〇三年九月二十日</p>	

龍泉寺

壯麗古刹密林間
晨霧繚繚起湖面
樓台亭閣白雲下
唐風新寺有真仙

二〇〇三年九月三十日

龍泉寺

壯麗たる古刹密林の間

晨霧繚繚として湖面に起こる

樓台亭閣白雲の下
唐風新寺に真仙有り

二〇〇三年九月三十日



大法徒 宋詞

大法徒
蒙難在中原
天地無道爛鬼狂
正法洪勢在眼前
法正人世間

大法徒
重任擔在肩
救度眾生講真相
清除毒害法無邊
神路不算遠

二〇〇三年十月一日

大法の徒 宋詞

大法の徒

難を蒙りて中原に在り

天地は無道にして爛鬼狂う

正法の洪勢眼前に在り
法は人世を正す

大法の徒
重き任を肩に担う
衆生を救度し真相を講じ
毒害を清除して法は無辺
神の路はさほど遠からず

二〇〇三年十月一日



<p style="text-align: center;">法輪常轉</p> <p style="text-align: center;">大法圓容乾坤正 法王慈悲造大穹</p> <p style="text-align: center;">二〇〇三年十月三日</p>	<p style="text-align: center;">法輪常轉</p> <p style="text-align: center;">大法は圓容にして乾坤を正し 法王は慈悲にして大穹を造る</p> <p style="text-align: center;">二〇〇三年十月三日</p>	
<p style="text-align: center;">洪誓大願</p> <p style="text-align: center;">歷盡滄桑洪願了 歲月蹉跎一念中</p> <p style="text-align: center;">二〇〇三年十月七日</p>	<p style="text-align: center;">洪誓大願</p> <p style="text-align: center;"><small>そうそう</small> 滄桑を遍歴して洪願了す</p> <p style="text-align: center;"><small>さだ</small> 歲月蹉跎にして一念の中</p> <p style="text-align: center;">二〇〇三年十月七日</p>	
<p style="text-align: center;">救大穹</p> <p style="text-align: center;">古今不曾有 將來天地久 看恆古大穹蒼 誰還敢再下走</p> <p style="text-align: center;">二〇〇三年十月十二日</p>	<p style="text-align: center;">大穹を救う</p> <p style="text-align: center;">古今かつて有らず 將來天地久し</p> <p style="text-align: center;"><small>こうこ</small> 恆古たる大穹蒼を看て</p> <p style="text-align: center;">誰かまた敢えて再び下走す</p> <p style="text-align: center;">二〇〇三年十月十二日</p>	

劫數 元曲

中原大地
五千文明
風浪不止
西來幽靈
害眾生
破古風
人快醒
神州大法開行

二〇〇三年十一月十一日

劫數 元曲

中原の大地
五千の文明
^{ふうろう}
風浪止まらず
西より幽霊来たり
衆生を害し
古風を破る
^{はや}
人快く醒めよ

神州は大法が動き出す

二〇〇三年十一月十一日



危

世風日下眾助流
爛鬼帶頭人跟走
我為世人愁
人不為己憂

二〇〇三年十一月二十日

危

世の風気日ごとに下り、衆助長す
^{らんき}
爛鬼率先して人^{くび}跟いて行く
我は世人の^{うれ}為に愁うるも
人は己の^う為に憂れず

二〇〇三年十一月二十日



蓮 元曲

萬朵淨蓮我栽
嚴寒傲雪齊開
天晴滿園春來
仙枝百態
香風沁飄天外

二零零三年十二月一日

蓮 元曲

萬輪の淨蓮を我が栽^{さい}す
嚴寒にて雪に傲りて齊^{ひと}しく開く
天晴れ園に満ちて春來たる
仙枝百態
香風沁^しみて天外に飄^{ひょう}す

二〇〇三年十二月一日



斷 元曲

修不難
心難去
幾多執著何時斷
都知苦海總無岸
意不堅
關似山
咋出凡

二零零四年一月一日

斷 元曲

修難しからず
心去り難し
幾多の執着は何時に断つ
皆も知る苦海すべて岸無しを
意堅からざれば
関は山に似て
如何にして凡を出づ

二〇〇四年一月一日



香蓮

淨蓮法中生
慈悲散香風
世上洒甘露
蓮開滿天庭

二零零四年元旦

香蓮

淨蓮法中に生ず
慈悲にして香風を散らし
世上に甘露^{そそ}を洒ぎ
蓮は開いて天庭に満つ

二〇〇四年元旦



<p>法正人間時</p> <p>爛鬼已滅絶 黒手化膿血 世人幹的事 必遭惡疫虐</p> <p>二零零四年一月一日</p>	<p>法が世間を正す時</p> <p>爛鬼<small>らんき</small>已に絶滅し</p> <p>黒手<small>のうけつ</small>は膿血に化す</p> <p>世人<small>なせ</small>幹的事</p> <p>必ずや悪疫<small>ぎやく</small>の虐すに遭う</p> <p>二〇〇四年一月一日</p>	
<p>蠢 元曲</p> <p>狂狂狂 跳上樑 烏鴉遮太陽 蠢惡謊 大曝光 忌火攻心現原象 蟾蜍躡下油湯</p> <p>二零零四年一月八日</p>	<p>蠢（愚か） 元曲</p> <p>狂、狂、狂 梁の上に跳び</p> <p>烏鴉<small>からす</small>が太陽を遮る</p> <p>愚、悪、嘘 大いに暴かれる 忌みの火心に攻り原像を現し</p> <p>蟾蜍<small>ガマガエル</small>は油の熱湯に跳び下りる</p> <p>二〇〇四年一月八日</p>	

<p style="text-align: center;">別哀</p> <p>身臥牢籠別傷哀 正念正行有法在 靜思幾多執著事 了卻人心惡自敗</p> <p>二零零四年一月十三日</p>	<p style="text-align: center;">哀しまないで</p> <p>身は牢屋に臥すれども哀しまないで</p> <p>正念正行して法在り 幾多の執着の事を静かに考え 人心を片付けば悪は自ずから敗る</p> <p>二〇〇四年一月十三日</p>	
<p style="text-align: center;">腰鼓隊 元曲</p> <p>腰鼓陣 法中神 法鼓聲聲都是真善忍 三界除惡救世人 雄姿正念震天門 爛鬼哪遁</p> <p>二零零四年一月二十二日</p>	<p style="text-align: center;">腰鼓隊 元曲</p> <p>腰鼓の陣 法中の神 法鼓の声声すべて真善忍 三界で悪を除き世人を救い 雄姿正念天門を震わす</p> <p>爛鬼何処に遁す</p> <p>二〇〇四年一月二十二日</p>	
<p style="text-align: center;">難</p> <p>千辛萬苦十五秋 誰知正法苦與愁 只為眾生能得救 不出洪微不罷休</p> <p>二零零四年一月二十二日</p>	<p style="text-align: center;">難</p> <p>千辛萬苦十五秋</p> <p>法を正す苦と愁いを誰か知る 只衆生が救われる為に 洪微出でずば決して休めず</p> <p>二〇〇四年一月二十二日</p>	

師徒恩

狂惡四年颯 穩舵航不迷
法徒經魔難 重壓志不移
師徒不講情 佛恩化天地
弟子正念足 師有回天力

二零零四年二月一日

師徒の恩

狂惡は^{ひょうふう}颯風四年吹き荒る
舵穩やかで航に迷わず
法徒魔難を経て
重圧に志移らず
師徒は情を講ぜず
佛恩は天地を化す
弟子正念足りれば
師は回天の力有り

二〇〇四年二月一日



神醒

眾生快快醒
中原設陷阱
都是為法來
何故理不清

二零零四年二月十七日

神、目醒めよ

眾生よ速く目醒めよ
中原に^{おとしあな}落穴が設けられた
すべて法の為に来たのに
なぜ理が分からない

二〇〇四年二月十七日



天門已開

佛恩浩蕩度眾生
再造乾坤大法來
洪願穹體天地固
正微正洪正三才
世人能醒正念出
萬古天門從此開

天門すでに開く

佛恩^{こうとう}浩蕩 眾生を濟度す
乾坤を再造し 大法来る
洪願により 穹體天地固まり
微を正し、洪を正し、三才を正す
世人醒め正念出ずれば
萬古の天門此れから開く



<p>二零零四年二月二十八日</p>	<p>二〇〇四年二月二十八日</p>	
<p style="text-align: center;">怕啥</p> <p>你有怕 它就抓 念一正 惡就垮 修煉人 裝著法 發正念 爛鬼炸 神在世 證實法</p> <p>二零零四年二月二十九日</p>	<p style="text-align: center;">恐れ無し</p> <p>汝に恐れ有らば 它是直に抓む 念を正しくすれば 惡は直ぐに崩れる 修煉の人 法を持っており 正念を發すれば</p> <p style="text-align: center;"><small>らんきき</small> 爛鬼炸く</p> <p>神世に在りて 法を実証す</p> <p style="text-align: center;">二〇〇四年二月二十九日</p>	
<p style="text-align: center;">轉輪</p> <p>百年紅朝一路殺 乾坤倒運戲中華 看明此時紅花盛 可曉它日開蓮花</p> <p>二零零四年三月五日</p>	<p style="text-align: center;">轉輪</p> <p>百年の紅朝の一路は人殺し 乾坤逆に運行し中華を<small>たわむれ</small>戯る 今は紅花が盛りなるを見えるけれど 他日蓮花が開くを悟れるか</p> <p style="text-align: center;">二〇〇四年三月五日</p>	

洪劫

法正洪穹除舊塵
天地茫茫處處春
悠悠萬古洪勢過
再看新宇佛道神

二零零四年三月八日

洪劫

法は^{こうきゅう}洪穹を正し旧塵を除く
天地は茫茫たるも処々に春
悠悠たる万古の洪勢過ぎれば
再び新しい宇宙の佛道神を見る

二〇〇四年三月八日

